

チェックボックス付観察シート法

— ユーザテスト効率化のための観察記録手法のススメ —

do-gugan project 古田 一 義

http://www.do-gugan.com/

道具眼プロジェクト

furuta@do-gugan.com

使いやすさ研究所

http://usability.novas.co.jp/



u'eyes

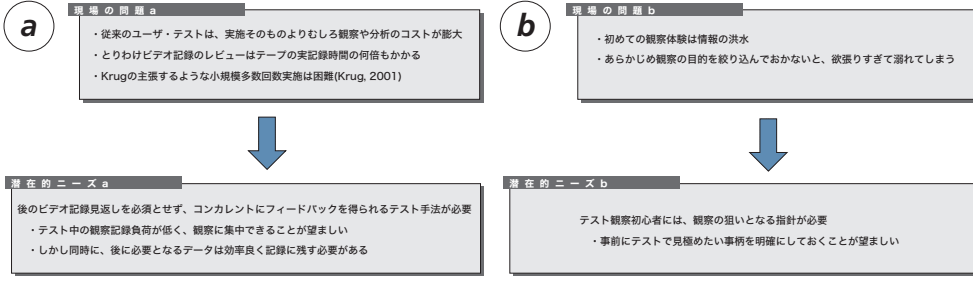
http://u-eyes.novas.co.jp/

佐藤 大 輔

株式会社ユー・アイズ・ノバース

sato@novas.co.jp

1. context



2. introduction

私たちの実践

観察記録シートに、典型的によく記入するキーワードを効率良く記録できるようチェックボックス化

ニーズ a の充足

- 観察時記録の省力化
典型的な記述がチェックで済ませられ、他の事象の観察や記録に時間が割ける。
- 分析時集計の省力化
用紙の一定の位置にあるチェックボックスをカウントするだけで集計できる。

ニーズ b の充足

事前にチェックボックスを設定することが、結果として、観察の焦点を定める副次的効果をもたらす。

観察シートの作り方

「典型的によく記入するキーワード」とは？

事前に懸念されている問題点に関して、以下の様な観点からチェックボックスを作成する。

- 実際にトラブルを引き起こすかどうか 1. 頻度記述型
 - どの程度の困難を生じさせるか 2. 程度記述型
 - やり方が複数ある時に、どの手を使うか 3. 方略記述型
 - 操作順序の入れ替わりが許される時に、どの順でやるか 4. 順序記述型
- など。

3. FAQ

Q. 事前懸念項目をリストアップするのにインスペクション法など専門家評価に近い工程が必須？

A. 実施できれば効率が良いでしょう。ただ、最近主張されているような小規模多数回実施型のユーザテストであれば、前回のテストで浮上した問題点や、あらたに変更した箇所など、懸念点は自動的に挙がってくるのではないのでしょうか。

Q. チェックリスト系の手法は、予め項目に挙がっている以外の観点の見落としの危険があるのでは？

A. チェックといっても、Heuristic Evaluation法などにおける項目合致のチェックのような判断の難しい高級なタスクではないので、むしろ省力化により観察者には余裕ができると考えています。

1. 頻度記述型

事前懸念事項が全被験者中何割のケースで発現したかをカウントするためのチェックボックス。

最後に「発話」ボタンを押し忘れた

2. 程度記述型

ある操作ステップを遂行するのに、被験者がどれくらい困難を感じたか、など問題の程度を記録するためのチェックボックス。

スムーズにできた 迷った 人に聞いた できなかった

3. 方略記述型

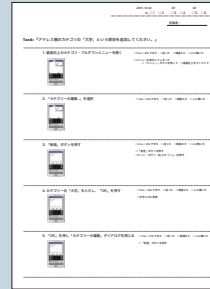
ある目的の完了に複数の方略を取りうる場合などに、実際に被験者がどの手を使ったかを記録するためのチェックボックス。

メモリアルダイヤルから検索した 発信履歴から選択した

4. 順序記述型

ある目的の完了に対して、操作順序が複数許容される場合に、実際に被験者が実施した順序を記録するためのボックス。チェックではなく、枠内に数字を記入していく。

1 電話番号入力 2 発話ボタン押下



sample

here.

